

2018年3月期 第2四半期決算説明会における質疑応答の概要

(2017年11月1日(水)、東京)

【グループ全体】

Q.当初中計では3か年の設備投資総額(リースを含む)が868億円となっていたが、今期までの設備投資の状況を見る限り、進捗が遅れている印象を受ける。その主な理由を教えてください。また、来期をどのように考えればよいか？

A.主に維持・保全の投資において当初見込んでいたものよりも金額が減少することや、案件の一部において進捗が遅れ次期中計にずれこむものもある。なお、来期の計画については現時点では見直しを行っていないため、来年5月の期初予想の時点で公表する。

Q.次期中計での設備投資の大枠の考え方を教えてください。今中計で行っている設備投資の回収局面に入るのか？それとも、引き続き今中計並みの設備投資が続くのか？

A.来期が今中計の最終年度にあたるわけだが、現時点では営業利益300億円を超える実力がついたと考えており、この水準は維持していきたいと考えている。昨今の業績改善は、長期視点に立ち、コア事業を中心に設備投資を行った成果が出たものである。次期中計においてもコア事業の収益力向上に際して、何が一番重要な投資案件なのかしっかりと踏まえた上で投資を行っていく。具体的な数値については現時点で申し上げることはない。

【加工食品】

Q.業務用調理品の売上の伸びが上期は16%だったが、下期は7%となっている。伸び率はプラスだが鈍化してしまう背景を教えてください。

A.上期は大型のスポット商品が導入された影響が大きい。一方、下期はこれがなくなるので増収率が鈍化するように見えるが、前期比では+7%であり、基調としては順調に推移していると捉えている。

Q.原材料コストの主な内訳を教えてください。

A.コストが上昇している原材料は主に鶏肉と米である。

Q.チキン加工品や米飯類の引き合いが強いという話だったが、来期の家庭用調理品のトップラインの成長をどの程度の水準で見込んでいるのか？

A.10月に入ってから市場の伸びは順調に続いており、来期も成長が続くと見ている。

【低温物流】

Q.営業利益の増減要因(P.15)を見ると、「集荷増による業績影響額」が見込比でもプラスで非常に好調に見受けられる。この背景について教えてください。また、来期の見通しも含めて教えてください。

A.今期の特徴として、在庫水準そのものは為替の影響などもあり例年に比べ高い水準ではなかったが、在庫回転が比較的早い商材の集荷が大変好調に進んだ。この点は今後も継続すると思われる。一方で、主要商材である畜肉において、米国産冷凍ビーフにセーフガードが発動されたが、チルドビーフにも広がる可能性があるため、今後の動向を注視していく必要がある。

首都圏については東京団地冷蔵の再稼働も控えているなかで、他社のアセットも使って我々の設備能力以上の集荷を行ってきた。今後も他社との協力関係をうまく活用しながら、更なる集荷拡大を図っていきたいと考えている。

以 上

※当文書は決算説明会当日の質疑応答内容をすべて記録したものではなく、株式会社ニチレイが編集を加えております。